

平成26年の労働災害発生状況 ～前年に比べ減少～

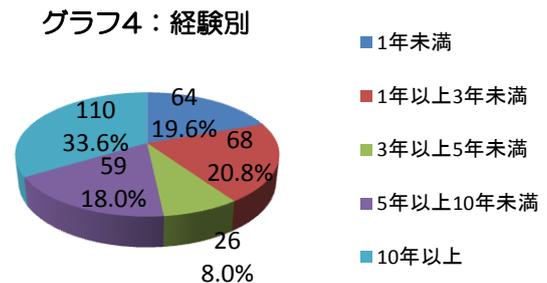
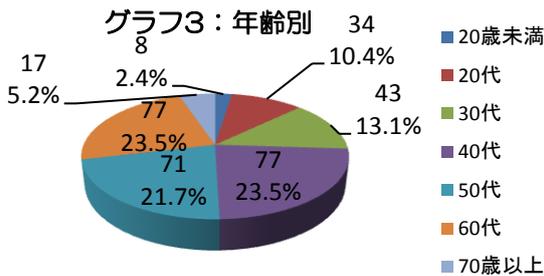
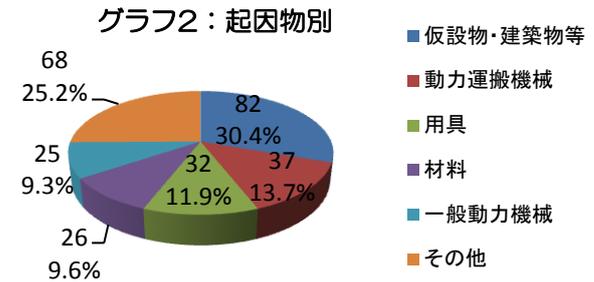
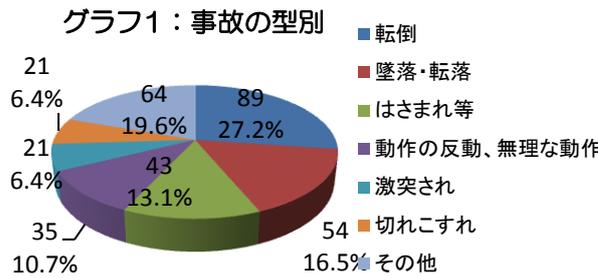
平成26年に当署管内で発生した休業4日以上労働災害の死傷者数は、327人で前年に比べ28人(7.9%)減少しました。しかし、そのうち3人が死亡災害となり、前年に比べ1人増加しています。

主な業種別の死傷者数と前年比較では、製造業が129人(うち死亡1人)で前年と同数、建設業が33人(うち死亡1人)で17人減少、運送業が26人(うち死亡1人)で2人減少、農林・畜産・水産業が6人で6人減少、小売業が44人で12人増加、ゴルフ場が32人で4人増加となっています。

事故の型別では、①「転倒」が89人(27.2%)、②「墜落・転落」が54人(16.5%)、③「はさまれ・巻き込まれ」が43人(13.1%)、④「動作の反動・無理な動作」が35人(10.7%)、⑤「切れ・こすれ」と「激突され」が21人(6.4%)の順で多くなっています。(グラフ1参照)

起因物では、①「仮設物等」が82人(25.1%)、②「動力運搬機」が37人(11.3%)、③「用具」が32人(9.8%)、④「材料」が26人(8.0%)、⑤「一般動力機械」25件(7.6%)の順で多くなっています。(グラフ2参照)

被災労働者の年齢別では、①「40代」と「60代」が77人(23.5%)、③「50代」が71人(21.7%)、④「30代」が43人(13.1%)の順で多く(グラフ3参照)、経験期間別では、①「10年以上」が110人(33.6%)、②「1年以上3年未満」が68人(20.8%)、③「1年未満」が64人(19.6%)の順で多く(グラフ4参照)発生しています。



主要な業種別労働災害発生状況(平成25年と平成26年の比較 確定値)

業種別	平成26年 (1月～12月)	平成25年 (1月～12月)	増減数	増減率	構成率
全産業	327 (3)	355 (2)	-28 (1)	-7.9%	100.0%
製造業	129 (1)	129 (1)	0 (0)	0.0%	39.4%
食料品	22	14	8	57.1%	6.7%
窯業土石	41 (1)	50 (1)	-9 (0)	-18.0%	12.5%
機械金属等	40	34	6	17.6%	12.2%
建設業	33 (1)	50 (1)	-17 (0)	-34.0%	10.1%
土木工事	5 (1)	15	-10 (1)	-66.7%	1.5%
建築工事	19	23 (1)	-4 (-1)	-17.4%	5.8%
運送業	26 (1)	28	-2 (1)	-7.1%	8.0%
陸上貨物	22 (1)	27	-5 (1)	-18.5%	6.7%
農林・畜産・水産業	6	12	-6	-50.0%	1.8%
商業等	132	135	-3	-2.2%	40.4%
小売業	44	32	12	37.5%	13.5%
社会福祉	20	18	2	11.1%	6.1%
接客娯楽業	43	46	-3	-6.5%	13.1%
ゴルフ場	32	28	4	14.3%	9.8%

※ この統計は、労働者死傷病報告により報告があった休業4日以上労働災害を集計したものです。
 ※ カッコ書きの数値は、死亡者の内数です。

災害事例

災害発生概要		プレス機械に手指をはさまれ負傷する									
業種	製造業	職種	工員	年齢	50代	性別	女	災害程度	休業見込み 4週間	経験	14年
発生状況	動力プレスの金型を交換するため、光線式の安全装置の切り替えスイッチにより無効にした。金型の交換が終了し、作業を再開するときに安全装置の切り替えスイッチにより有効に作動させることを忘れて作業を続けていたため、金型内に手指が入った状態で、稼働して手指がはさまれた。										
	事故の型		はさまれ・巻き込まれ			起因物		プレス機械			
発生原因	・安全装置の切り替えスイッチにより無効にした状態のまま、作業を開始したこと。 ・金型交換作業後にプレス作業主任者又は職長等が安全装置が有効に作動しているか否かの確認を怠ったこと。										
	・金型の交換等により安全装置を無効にしたときは、作業を再開する時に安全装置が有効に機能していることを指差し呼称等により確認する。 ・プレス作業主任者又は職長等は、金型交換作業を直接指揮し、作業を再開するときに安全装置が有効に作動することを点検、確認する。 ・安全装置が有効に作動していることの確認を促す、表示を設ける。										
再発防止策	・金型の交換等により安全装置を無効にしたときは、作業を再開する時に安全装置が有効に機能していることを指差し呼称等により確認する。 ・プレス作業主任者又は職長等は、金型交換作業を直接指揮し、作業を再開するときに安全装置が有効に作動することを点検、確認する。 ・安全装置が有効に作動していることの確認を促す、表示を設ける。										

災害発生概要		床の段差でつまづき、転倒する									
業種	製造業	職種	作業員	年齢	60代	性別	男	災害程度	休業見込み 2カ月	経験	8年
発生状況	工場の外で出荷作業の準備中、工具を取りに工場内に入る時に床の段差でつまづき、転倒する。										
	事故の型		転倒			起因物		通路			
発生原因	・床の段差でつまづいたこと。										
	・転倒の原因となる床面の段差等は可能な限り、無くすことが望ましく、段差を無くすことが困難な場合は段差があることを示す表示を設ける等により転倒防止の注意喚起を行う。 ・転倒のおそれがある場所で、重症化する要因となるもの(例えば、機械や柱の角など)にクッション材を設ける等により負傷の程度を軽減する措置を講ずる。										
防	・転倒の原因となる床面の段差等は可能な限り、無くすことが望ましく、段差を無くすことが困難な場合は段差があることを示す表示を設ける等により転倒防止の注意喚起を行う。 ・転倒のおそれがある場所で、重症化する要因となるもの(例えば、機械や柱の角など)にクッション材を設ける等により負傷の程度を軽減する措置を講ずる。										